



神戸学園都市 ワイズメンズクラブ



THE Y'S MENS CLUB OF KOBE GAKUENTOSHI
THE SERVICE CLUB TO THE YMCA

2021年4月 (通巻322号)

< 主題 >

- ・神戸学園都市クラブ会長：柴田昌一：「みんなでチャレンジしよう」
- ・国際会長：Jacob Kristensen (デンマーク)：「命の川を信じよう (Trust in the river of life)」、スローガン：価値観、リーダーシップ、エクステンション
- ・アジア太平洋地域会長：David Lua (シンガポール)：「変化をもたらそう (Make a difference)」
スローガン：奮い立たせよう
- ・西日本区理事：古田祐和 (京都トウバー)：「Let's do it now,
2022に向けて誇りを持って All is well」
- ・六甲部長：安行英文 (さんだ)：「行動に信念を、信念は行動に」
Believe in what you do. Do what you believe in.
- ・2021年4月強調活動：YMCA サービス, ASF：益国隆人 Yサ・ユース事業主任 (広島)
「今期 YMCA と協働した活動を振り返り、次期に縦続できるクラブの支援をみんなで考えよう。」

4月 第1例会

- ・日時：2021年4月15日(木)18:00～
- ・場所：西神戸YMCA
- ・内容：卓話「差別(人種・性・年齢)から共存・共作へ 一超高齢化・コロナ後の世界に向けて一」
矢田俊彦
(関西電力統合生理学研究センター長)

< 今月の聖句 >

「ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに従った。」
(マタイによる福音書 4章25節)

4月誕生者 おめでとう!

- ・隠樹圭子メン (4/27)

3月の出席状況

第一例会 11名
ゲスト 2名
事務例会 9名

7月～ 累計ファンド

- ・CS(年賀切手) 6,750円
- ・TOF(断食) 6,300円
- ・FF(家庭の断食) 3,600円
- ・BF(古切手) 6,750円
- ・災害支援金 21,000円
- ・Yサ・ASF 30,000円

[役員] 会長：柴田昌一、直前会長：杉本隆人、書記：杉本隆人、
会計：中村 剛、連絡主事：櫻井英治

[委員] 地域奉仕・環境：内田邦彦、Yサ・ユース：森本哲男、交流：隠樹圭子、ファンド：丹家元陽、仁科拓巳
EMC：藤井久子、広報・ブリテン：田辺征一、メネット：合田洋子、メール委員：田辺征一、

[西日本区役員] JWF 委員：杉本隆人 [IBC] 台湾高雄ポートクラブ (2004年1月締結)

[DBC] 東京武蔵野多摩クラブ (2011年6月締結) [DBC] 岡山クラブ (2018年6月締結)

神戸学園都市クラブ 〒651-2102 神戸市西区学園東町2-1-3 TEL 078-793-7402 FAX 078-793-7470
事務例会：第1木曜日、第1例会：第3木曜日、クラブホームページ

<http://www.kobeymca.org/ys/gakuen/bulletin.html>

<3月例会報告>

日時：2021年3月18日(木)18:00~19:30

場所：西神戸YMCA多目的室

出席：内田、櫻井、柴田、杉本、田辺、丹家、辻本、中村、仁科、野呂、森本

ゲスト：寺脇、安行 六甲部長

本日の卓話者、寺脇英志氏は令和元年にNPO法人「虹のかけはし曾爾(そに)」を発足された。奈良と三重の県境にある曾爾村は氏のふる里で、今も、緑豊かな高原が広がる自然豊かで素晴らしいところ。曾爾村は古事記にも登場するいにしへの村で、「曾」は世代を重ねること、「爾」は汝(なんじ・あなた)という意味があります。世代を重ねて今のあなたがあるという「気づき」とふる里への感謝と皆さんに曾爾を知ってほしいという思いからこの運動をはじめられたとのこと。以下は法人紹介の抜粋です。

「人生は縁と出来事との出会いであります。お互いこの世に一度だけ命が与えられ、こうしてご縁に恵まれたことは、実に不思議で、ありがたいことです。「虹のかけはし曾爾」が目指すものを少しでもご理解くださったとすれば本当にうれしく思います。神様もきっと喜んでくださっているに違いありません。曾爾の美しい自然とともに「心のふる里」を紡ぎながら、感謝の心が人々の奥深く届けば、人類の文化の向上と発展が約束されると思うのです。」



<4月事務例会報告>

日時：2021年4月1日(木)18:00~19:20

場所：西神戸YMCA

出席：内田、櫻井、柴田、杉本、中村、野呂、藤井、森本

ヴィジター：渡邊ワイズ(東京武蔵野多摩クラブ)

—報告事項—

- (1) 第24回西日本区大会 6月5日~6日
ウエスティン都ホテル京都 柴田会長出席
- (2) 京都パレスワイズ50周年例会
5月23日(日)16:30~19:30
- (3) 東日本大震災被災地支援チャリティーコンサート 5月1日(土)14:00~15:30
神戸栄光教会 申込締切4月16日
- (4) 神戸西クラブ創立60周年記念礼拝
5月15日(土)14:00~15:00
神戸YMCA三宮会館チャペルにて
- (5) ロースター記事訂正の締切 4月15日

—協議事項—

- (1) 4月例会 2021年4月15日(木)
18:00~19:30
卓話「差別(人種、性、年齢)から共存、共存へ—超高齢化・コロナ後の世界に向けて—」
講師：矢田俊彦氏(関西電力医学研究所総合生理学センター長、自治医科大学名誉教授)
パソコン、プロジェクター、スクリーン、配布資料などを準備する。
- (2) 5月例会 2021年5月20日(木)18:00~19:30
卓話講師：辻本邦子ワイズ
テーマおよび内容は未定
- (3) 6月例会 2021年6月17日(木)18:00~19:30
「未定」

—協議事項—

- (1) 4月第一例会 4月15日(木)18:00~
卓話「高齢者の健康(仮題)」矢田俊彦
(関西電力統合生理学センター長)
- (3) 5月第一例会 5月20日(木)18:00~
卓話「未定」 辻本邦子ワイズ

—YMCA報告—

- (1) ポジティブネット募金(2020年6月~2021年3月)は当初目標額を下回った。
- (2) 西神戸YMCA関係の新年度人事異動が櫻井担当主事より報告された。

<寄稿>

「ジブラルタル海峡クルーズと色彩の王国モロッコ11日間」(第9回)
8月29日(木)

今日は後ろ髪を引かれる思いの帰国の日。朝食時、これがモロッコ最後になるかもしれない本当においしい本物のオレンジジュースをお替り。バスは、ここから約200km先のカサブラ

ンカ空港へ。マラケシュの郊外に出ると、すぐ砂漠。そして刈り取られた小麦畑へと続く。ここは農業国モロッコ有数の穀倉地帯。道の両側には 100~200 頭の羊の群れを引き連れた牧童達があちこちに。残った小麦の茎を羊に食べさせ、そしてその落し物が肥料となり、肥沃な大地がまた、おいしい小麦を育てるのでしょう。昼にカサブランカ空港着。バスの運転手カリムさんの走行距離 2400 km に感謝。チェックイン後、機内持ち込み用スーツケースにモロッコワイン（日本ではほとんど手に入らないはず）1本 70~150DH、6本を仕入れて機内へ。帰りの A-380-800 も満席。PM2:45 離陸。昼食はモロカンサラダに、最後のチキンタジンをフランスワインで頂く。

8月30日（金）

AM1:20 ドバイ着。乗り継ぎも1時間半あったが、AターミナルからCターミナルまで行かないといけない。空港職員の計らいで、バス移動となりギリギリセーフで大阪に向けて離陸。朝食にお寿司を頂き、夢の中。昼食はハンバーグ、スクランブルエッグ、ポテトにデザートは果物。PM5:30 頃関空に着陸の予定で機体は徐々に降下し、海上の誘導灯が見えて来たなと思ったら、アレ？上昇し始めている？そして又、雲の上に上がり、ゆっくりと旋回し始めた。「陸上の天候不順の為、上昇しています」とのアナウンス。そして、約1時間後、無事に着陸。これは初めての経験。外に出てみると、ザーザー振り。大雨警報が出ており、泉佐野方面では、何本もの稲妻が。よくこんな中見事な着陸をしていただいた機長に感謝。PM9:00 過ぎ、帰宅後のスーパードライがうまい。帰国日定番の冷やしソーメンでホッと一息。

よーし、明日から仕事だ！

ここで最後にモロッコのおさらい。主要産業は小麦、ナツメヤシ、リンゴ、オレンジを中心とした農業、ビール、ワインも造っている。そして、世界の燐（リン）の8割を産出する。ちなみに消費税は内税で19%、食品は4%。モロッコのタブー…国王、王室の批判。宗教に関する誹謗、中傷。一般女性の撮影。モロッコ国王は、モロッコで一番お金持ち。前国王は農業政策に力を入れ、全国に28のダムを建設した。現国王は国の予算の1/4を教育に入れ、あちこちに学校を造っている。教育こそ国の力という。中学まで無料。そして、妃には16才年下の聡明なシステムエンジニアの民間人を1人だけ。妃として初めてマスコミに登場し、国民の人気者に。各家庭は元より、レストラン、街中に国王の写真と国旗が飾ってあり、尊敬されているとの事。ここで、イスラムの一夫多妻制について。これは一種の社会保障制度のようなもの。つまり、他民族との戦い、これをジハード（聖戦）という。これで亡くなった男の未亡人を、生活に余裕のある人が養う事にしたのが始まり。今のISのジハードは破壊だけで、イスラムとは全く関係ないと言う。これに危機を感じた国王は、世界中のモロッコのイスラム聖職者を集めて、しっかりとした教育を指示したとの事。バスから見た風景の1つに、至る所に地元の人と思われるヒッチハイカー（1人もあれば、家族も）が居る。鉄道も一部しかなくバス等の公共交通機関も少ない。マイカーを持っていないと必然的にこうなるのでしょ。更に、村から遠く離れた道の横を帽子もかぶらず、手ぶらでテクテクと歩く人を見かける。どんな用事でどこから来て、どこに行くんだろうと要らぬ心配をしてしまった。最後にモロッコ語を。ショクラン（ありがとう）、サラーム（平和）、スンマヘン（申し訳ない）、アンタ（みんな）、アホヤ（兄弟）。アンタアホヤで「みんな兄弟」となる。

[完] (丹家元陽)

< 4月の聖句 >

「ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の
向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに従った。」

(マタイによる福音書 4章25節)

子ども服メーカーの社長のエッセイを読みました。社員に「あなたのファンをつくりなさい」と言っているそうです。また「働く本人の自覚さえあれば、ノルマやマニュアルは不要です。サービス産業というのは人がすべてであり、人を管理するというのは不可能です」と書かれていました。「大切なのは内面、つまり心です。せつかく子どもに関わる仕事をしているのだから、内面を大事にしたい。『あなたのアドバイスをうけて買いたい』と言われる社員になればいいのです」と。奉仕活動は「神様のサービス業」だと思います。イエスはファンをたくさん持っておられました。私たちワイズも「あなたとつながりたい」と言われる存在でありたい。「ワイズメンの奉仕を受けたい」と思われる活動をしたいです。とっておきの楽しいつながりと奉仕で。

西日本区チャプレン 立野 泰博 (熊本ジェーンズ)
西日本区理事通信2021年4月号から転載

< 3月の聖句 >

「昔の方がよかったのはなぜだろうかと言うな。

それは賢い問いではない」

(コヘレト 7章:10 節)

コロナ禍の中で聞こえてくる言葉に「元の生活には戻れない」というものがあります。その生活がどうしてよかったのか、いまコロナ禍にあって何が大切であったかを教えられています。私たちは「昔の方がよかった」という言葉をよく聞きます。なぜ「昔の方」がよかったのか。それは未来に対して不安があるからだと言えます。これからどうなるのかわからない。そのような中では確実に安心していただける昔に戻りたいとおもうのでしょうか。しかし、時間は過去にはもどりません。いくら昔がよくても、昔にはもどれないのです。となると「賢い問いでない」とはまさにそのとおりです。たとえ未来に不安があっても、ワイズの仲間を信じて一歩踏み出す。先に進まれるワイズ仲間と共に一歩ふみだす。それが未来につながると 생각합니다。新しい生活様式があるなら、新しいワイズ様式を作しましょう。それがワイズの未来につながります。

西日本区チャプレン 立野 泰博 (熊本ジェーンズ)
西日本区理事通信2021年3月号から転載